# 東久留米今昔 写真で振り返る歴史

昔を振り返り、そして今を見ると、まちの発展がよくわかります。
市制施行50周年という節目の今、50年後、さらにその先の、
未来の東久留米を心に描いてみませんか。

## 駅

昭和44年 1969

### まちの玄関口 東久留米駅

2階に展望スペース「富士見テラス」を設けた駅舎は、平成6年（1994年）に完成しました。駅の開業当初は北口しかありませんでしたが、新たに西口、東口が設けられ、平成11年（1999年）には「関東の駅百選」に選定されています。赤い噴水彫刻のある西口は、「まろにえ富士見通り」へとつながります。

## 上の原地区

昭和37年 1962

### 癒しと商いの新たなエリア

まちづくりが進む上の原地区は、大きく姿を変え、大規模開発により平成30年（2018年）から日帰り温浴施設や大型商業施設などがオープンし、また新たな屋外運動施設も整備され、まちの風景が様変わりしてきています。

## 道

1972 昭和47年 郷土資料室所蔵写真

### 日常を支える道路

道がなかったところに新たな道が。東久留米駅西口から市役所本庁舎の前を通る市道、通称「まろにえ富士見通り」は、ちょうど正面に富士山が見える絶景スポットです。初夏の頃には、通りの名称の由来になっているマロニエ（ベニバナトチノキ）がピンク色の花を咲かせます。

## 市役所

昭和40年 1965

### まちの発展の証

「東久留米市」が生まれる前、「久留米町」の町役場は昭和38年（1963年）に落成しました。東久留米駅のほど近くにある現在の市役所本庁舎には、平成9年（1997年）に移転。ガラス張りの1、2階は吹き抜けになっており、「市民プラザひろば」として開かれています。

## 鉄道

昭和47年 1972

### ともに発展していく鉄道

大正4年（1915年）に開通して以来、多くの人を運んできた鉄道。市の発展と同期するように列車も進化してきました。今でも市民の大切な足であり続けています。

## 住宅

### 緑に囲まれたベッドタウン

市内には、大規模団地の先駆けとして昭和34年（1959年）に入居がはじまった「ひばりが丘団地」に続き、「東久留米団地（上の原団地）」、「滝山団地」がわずか10年ほどの間に完成しました。湧水の豊かな東久留米らしく、備えられた公園の池で水遊びをする様子も。建て替えや改装で生まれ変わり、今もなお多くの市民が暮らしています。

昭和41年 1966

## 商店街

昭和45年 1970

### 時代を映すまち並み

時が移ろい、建ち並ぶ店の種類は変わっても、商店街には今も昔も人の営みが息づいています。昭和45年（1970年）頃の駅前商店街では、生活用品や食事処が軒を連ねていました。現在では、駅前から団地のそばまで、14の商店街が市内のあちこちにあります。

## 東久留米の歴史をたどる

### 旧石器時代
のちに東久留米となるエリアで
人類が暮らしはじめる
市指定史跡・文化財「小山台遺跡」（旧石器～縄文時代）
都指定史跡・文化財「下里本邑遺跡」（旧石器～平安時代）

### 縄文時代
都指定史跡・文化財「新山遺跡」

獣面付土器／多聞寺前遺跡から出土した土器の装飾はイノシシと推測されています。

郷土資料室所蔵写真

### 安土桃山時代
市指定有形文化財「天正十一年板碑」

### 江戸時代
市指定有形文化財「加藤清正虎退治絵馬」
国登録有形文化財「村野家住宅」（江戸～大正時代）
都指定史跡・文化財「米津家墓所」
市指定史跡・文化財「柳窪梅林の碑」
市指定有形文化財「多聞寺山門」

### 明治時代
明治22年（1889年）久留米村が誕生

### 大正時代
大正4年（1915年）武蔵野鉄道（現西武池袋線）開通

大正8年（1919年）当時の村役場

### 昭和時代
昭和31年（1956年）町制が施行され、久留米町となる
昭和45年（1970年）東京都22番目の市として
東久留米市が誕生

市制施行式典

### 平成時代
平成9年（1997年）市役所本庁舎（現庁舎）開庁

### 令和
令和2年（2020年）市制施行50周年を迎える

### 未来へ

※個別に出典の記載がない大正8年～昭和47年の画像:出典『光の交響詩』